



▲ふなばし三番瀬海浜公園に替わるプールを作ってほしいとの要望も出た昨年の子ども市議会



初の施設見学会は郷土資料館などへ行きました(昭和48年度)



平成18年度の任命式



防災マップを作るために現場を調査しました(平成24年度)



少年少女交歓大会で積極的に主催者に質問(平成23年度)



図書館の新築などの提案がされた第1回子ども市議会(昭和54年度)

児童・生徒記者40周年

見て調べて書いた!

小さな記者の大きな歩み

まちの出来事や学校の話題を子どもならではの視点で伝えてきた児童・生徒記者の活動が今年で40年を迎えました。これまで3500人以上が務め、毎年、船橋の“今”を取材し、広報紙などで情報を発信してきました。今回は過去の活動や、松戸徹市長と船橋の未来について語った座談会などを紹介します。

☎ 広報課 ☎ 436-2012

児童・生徒記者ってな～に?

被災地を応援しよう、をテーマに行われた23年度の施設見学会。メッセージを添えた手作りのうちわを東松島市の保育園に送りました



ここに掲載されています



ホームページにも「子ども記者通信」が!

トップページから、アクセスしてください(上図参照)。「広報ふなばし」の紙面

上で掲載した記事以外にも楽しいものがたくさん。24年度の子ども記者通信も掲載されています。

昭和48年に始まり、任期は1年間です。4月には任命式を実施。市長から委嘱状が手渡され、各学校からの代表である小学6年生55人、中学2年生28人、市立・県立特別支援学校の生徒各1人、合計85人が務めます。通称「子ども記者」と呼ばれています。

市内の魅力などを伝える 子ども記者通信

子ども記者が市内のイベントや学校行事、市内の公共施設等をバスで巡る施設見学会などに参加し、直接体験したことを記事にします。なお、子ども記者通信は「広報ふなばし」でお知らせしているほか、市ホームページでも

ご覧いただけます。(左欄参照)

4年に1度の子ども市議会

子どもの意見を市政に反映しようと昭和54年11月に子ども市議会を初開催。子どもが市政に対する疑問を、直接市長に質問します。市政の仕組みについて理解してもらうとともに、まちづくりへの興味と参加意欲を養うため、原則4年に1度実施し、これまで9回開催しています。

提案された中から、月に1回スポーツやボランティア体験ができる「ハッピーサタデー」や、市立船橋高校出身のJリーガーによるサッカー教室などが実現しています。



子どもの目線で船橋の「今」を伝える子ども記者制度。今回は同制度が始まって40周年を記念して、松戸徹市長と子ども記者たちとの座談会を開催しました。高校生の代表として、子ども記者卒業生も交え、船橋の魅力や未来について真剣な意見が交わされました。

〈市長〉皆さん、おはようございます。市長の松戸徹です。座談会をとても楽しみにしていました。今日は遠慮なく発言してください。

か。また、趣味は何ですか。〈市長〉星が好きで、よく観察していました。その影響で、昔は科学者になりました。その影響で、星の写真を撮り、現像したら何も映っていないこともありました。それで、高校では現像を覚えてたくて写真部に入りました。

今も写真が趣味で、時間があれば写真展に行きたいですね。〈鉄谷〉どうして市長になろうと思ったんですか。〈市長〉船橋市は全国有数の潜在能力があり、市民のエネルギーもたくさんあると感じてきました。それを結びつけるとさらにダイナミックな都市になるのではと考え、市長になって新たな流れを作ってみようと思っ



松戸徹市長

出席者一覧 (敬称略)

- 松戸徹 (船橋市長・写真後列中央)
- 現役子ども記者(写真前列左から)
- 星野涼香 (七林中学校)
- 鉄谷拓人 (習志野台第一小学校)

- 飯田佐穂里 (小栗原小学校)
- 北野歓 (三山中学校)
- 平成23年度の子ども記者
- 市原泰世 (二宮中学校出身、千葉市立稲毛高校・写真後列左)
- 多々羅晃佑 (船橋中学校出身、県立船橋東高校・写真後列右)

船橋の未来

特別座談会

高齢者の方や障害者の方にも 住みよいまちづくりを (飯田)



〈飯田〉私は管弦楽を習っていたと思います。〈北野〉北部は緑が豊かで、南部には食品コンビナートや工場があり、海も広がっています。本当にいろいろな顔を持つまちだと思います。〈市長〉ボランティア活動にいろいろな人が参加できるような環境づくりは大切ですね。市民活動サポートセンター(※1)を知っていますか。ここではいろいろな団体のことを紹介しているので、ぜひ足を運んでみてください。

〈市長〉小さい子どもがいる家庭へのサービスをもっと充実してほしいです。医療や最近ニュースで取り上げられている待機児童問題などです。〈市長〉中学3年生まで、通院と入院にかかる費用を助成しています。待機児童に関しては、保育園の定員を増やすなどして待機児童を減らしていきます。〈市原〉これからは高齢者の方が



鉄谷拓人くん

—今の船橋をどのようなまちだと思いませんか。〈多々羅〉人口が多く、元氣のあるまちに感じますが、車の渋滞が多いですね。〈星野〉魅力的なまちだと私は思います。船橋特産の農産物や海産物がブランド化されたりして、住みやすいからです。

て、千人の音楽祭などに参加しています。多くの市内の音楽団体や他校の小・中学生が演奏していて、音楽活動が盛んだなと実感しています。〈北野〉ボランティア活動も盛んだと感じます。ぼくの中学校でも、三山小学校や三山東小学校のボランティアの人たちが花壇に花を植えてくれたり、生徒が地域の清掃に参加したりしています。

今、高齢化の話がでてきましたが、皆さん気になりますか。〈一同〉はい。〈市長〉みんなは近くのおじいちゃん、おばあちゃんに元気でいてほしいですね。高齢者の皆さんに生き生きと生活してもらう環境をつくることはとても大切なことで、そのようなまちづくりをしていきたいですね。皆さんの関心も高くとても心強いです。

〈市長〉市民まつりも明るくて元氣があります。しかし、交通の便がいい地域がある一方で、そうでない地域があるという印象もあります。〈市原〉今度は船橋が将来、どのようなまちになってほしいか意見を述べてください。〈北野〉ボランティア活動に、より多くの人が参加できるようにしてほしいです。

〈市長〉ボランティア活動にいろいろな人が参加できるような環境づくりは大切ですね。市民活動サポートセンター(※1)を知っていますか。ここではいろいろな団体のことを紹介しているので、ぜひ足を運んでみてください。

増えると感じているので、高齢者福祉に力をいれてほしいです。〈市長〉船橋は今も人口が増えているので、全国や県に比べれば高齢化率は低いです。高齢者人口は増えていきます。高齢者の方が元気に過ごせるようにしていかなければなりません。



飯田佐穂里さん

※1…フェイスビル5階にあり、ボランティアや市民公益活動に関する情報発信・収集、交流の場として利用できます
※2…昭和30~40年代に高根台や習志野台などに団地が建ち始め、人口が急増しました

市長になったら公園を増やしたい(北野)

—もし皆さんが市長になったらどのようなことをしてみたいですか。

〈市長〉おもしろそうだね。ぜひ、聞かせてください。

〈鉄谷〉細くて狭い道があるので、道を広く整備して安心して歩けるようにしたいです。

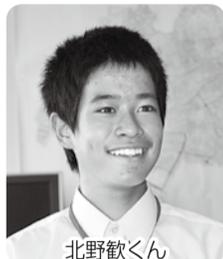
〈飯田〉まだ交通が不便な地域もあるので、高齢者の方などが移動しやすいよう、もっと交通の便をよくしてみたいです。

〈星野〉私は千人の音楽祭のような音楽のイベントをとおして、市民の方と交流してみようと思います。

〈多々羅〉自然などの環境を守り、公園の数をもっと増やしたいですね。また、フェイスビルの中に市役所を移転してもっと便利にしたいです。

〈北野〉ぼくも同じで公園を増やしたいです。また、江戸時代

に將軍が人々の意見を広く聞くために設置した、目安箱のようなものを設置したいです。



北野 欽くん

〈市原〉市政は市民の声が届きやすいので、積極的に市民の方と交流して、明るいまちをつくりたいです。

〈市長〉いろいろな意見が出てきました。まず公園ですが、まだまだ数が少ないのが現状です。公園用地の確保など大変な面もありますが、数を増やしていきたいと思います。

また、船橋版の目安箱として「市政ポスト」(※3)という仕組みがありますので、みんなもぜひ利用してみてください。

いつかはオリンピックを(多々羅)

〈市長〉私は市民だけでなく、日本、世界の人たちに船橋のことを知ってほしいと思っていますが、友達との会話で船橋の話は出てきませんか。

〈市原〉最近、船えもんやふなっしーのことがよく話題になります。

また、私は留学生や市外に住む友達と、船橋市にある商業施設

に將軍が人々の意見を広く聞くために設置した、目安箱のようなものを設置したいです。

〈星野〉私は小学生のときに、姉妹都市であるデンマークのオーデンセ市の人たちと交流したことが思い出です。多くの国と、このような国際交流の機会がさらに増えるといいと思



目利き番頭 船えもん

松戸徹市長

子ども記者

私たちの夢

私たちでもまちづくりに参加できますか(市原)

—いろいろ話してきましたが、ほかに何か市長に聞いてみたいことがある人はいませんか。

〈飯田〉はい。現在の船橋市の一番の課題は何ですか。

〈市長〉やはり高齢化問題ですね。10年後、市内の75歳以上の人は8万人以上になると予測されています。

いつまでも安心して暮らせる体制や、介護が必要になったときのサポート体制を作らなければなりません。10年は実はあつという間なので、すでに準備に取りかかっています。

〈市原〉小・中学生、高校生でもまちのために何かできることはありますか。

〈市長〉勉強や部活動など何でも一生懸命に取り組んだ上で、



市原 泰世さん

地域の行事に参加してほしいです。例えば祭り。やぐらを組むので、友達を誘って声をかけて、参加してみてもいいでしょう。

—最後にみんなの夢を教えてください。



星野 涼香さん

〈星野〉今やっている音楽をいかにすることを考えています。

〈鉄谷〉選手ではないですが、サッカー関係の仕事に就きたいです。

〈飯田〉原因不明の病気を研究して、人を助けたいです。

〈北野〉高齢者の方を助けられるような発明をしたいです。

〈市原〉私は外国語をいかにせる仕事をしてみたいです。

〈市長〉いいですね。夢に向かって頑張ってください。

みんなは船橋のことが好きですか。

〈一同〉はい。

〈市長〉船橋はスポーツや音楽が盛んです。音楽では、武藤英明さんを始め、船橋出身の世



ふなばしCITY NEWS
◆座談会の模様をJCN船橋習志野(地デジ)11チャンネルで録画放送します。
〈放送日時〉10月10日(木)、11日(金)午後0時30分、10時30分
※なお、同番組は市ホームページでもご覧いただけます



▲毎年多くの市民でにぎわい、熱気にあふれる、ふなばし市民まつり

**音楽をとおして
母校の児童と交流**

「自分が学んだ教室や校庭が変わらずそのまま残っていて、とても懐かしいですね」と、中学時代に子ども記者を務めたタダさん。今年の3月、母校の若松小学校の児童たちに自らが作詞・作曲した卒業の歌「はじまりの君」を提供し、その歌唱指導のために久しぶりに訪れました。この歌は事前に児童に小学校の思い出を作文にしてみらい、それをもとに作られました。



子どもたちに逆にエネルギーをもらったという歌唱指導

タダさん。子どもたちもプロの音楽家の技術を少しでも吸収しようと、真剣な表情で練習に取り組んでいました。歌唱指導が終わると、校庭に設けられた特設ステージでミニライブが開催されました。子どもたちも、そして保護者もタダさんの美しい歌声に引

き込まれていきました。ライブの最後には、「どんなことでもいいから、自分の好きなことを力いっぱい頑張ってほしい」と、後輩たちへ熱いエールを送ってくれました。

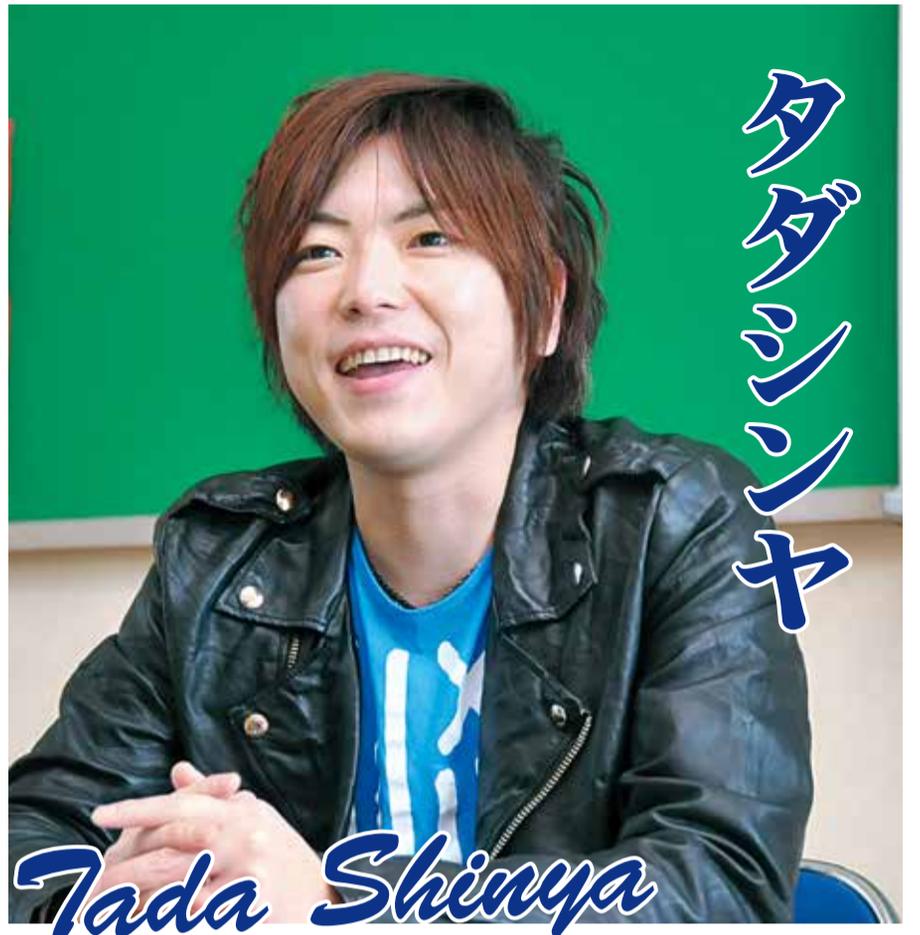
**些細なことでも
文章にしてみる**

タダさんは、もともと文章を書くことが好きで、「子ども記者のときに、団地にいる昆虫のことを記事にしました。本当に身近なことを書きましたね」と、当時を懐かしく振り返ります。

大人になり、昔から好きだった音楽を続けたという気持ちから、数多

くの事務所に自分の曲を収録したテープを送り、見事合格。音楽家としてデビューしました。音楽活動をしている中で、子ども記者の経験が生きていると気付いたと言います。作詞の作業は身近なことを文章にするため、記者と同じで周囲の観察が欠かせないからです。

「どんなに小さなことでも、自分が興味を持つたことを記事にしてみたい。自分がおもしろいと思ったことは、ほかの人も興味を持っていきますよ。感動、喜びを素直に伝えてください」。自らが経験した子ども記者の、今後の活躍を楽しみにしていました。



Tada Shinya

(若松中子ども記者OB)

作詞家、作曲家としても活動中のシンガーソングライター。平成19年に作曲家としてデビューして以来、AKB48の「ポニーテールとシュシュ」や嵐の「風の向こうへ」などの作詞、作曲に関わる。また、平成23年6月、7月にはNHK『みんなのうた』で自身初のシングル曲となる「優しいヒーロー」が放送された。

子ども記者への思い

これまで40年間で、3500人以上もの市内小・中学生たちが子ども記者を経験しました。さまざまな分野で活躍する先輩（OB・OG）に、活動の思い出を教えてくださいました。

「子どもだからこそ」の感性を大事にしてほしい

「任命式のときに言われた『子どもの目線で見たい』という言葉が印象的でした」と高山さん。子どもでもいいんだ、と認められた気持ちになったそうです。社会にはさまざまな立場の人がいるから、同じものをいろいろな目線から見るのが大事だと、子ども記者の経験をとおして学びました。



高山 美和さん
(昭和51年・高郷小)

この、「さまざまな目線が重要だ」との思いから、企業の作る商品に消費者の視点を反映させたいと考え、現在は家電メーカーで企業と消費者のパイプ役を担っています。

この記事を読んでいる子どもたちには、子ども記者でなくても市に対して自分の考えを伝えられる（※）ということを知って

もらいたいと言います。「誰でも“今のあなた”感じられることを、そのまま素直に発信してほしいですね」と高山さんは話してくれました。 ※まちづくりへの意見や要望などは市政ポストへ（3面下欄参照）

情報発信のおもしろさを追いつけて

「記事が掲載されてみんなに読んでもらったことが、とてもうれしかったですね」。限られたスペースでわかりやすく伝えるためにはどうしたらいいか、何度も考えて書き上げたそうです。



高橋 健太さん
(平成13年・小室小)

高橋さんは子ども記者の活動をとおして、情報発信に興味がありました。高校では放送部でドキュメンタリー番組などを制作し、なんと全国大会で準決勝まで進出。大学でも広告について学んだりCMを作成したりして、「伝える楽しさ」を追求し続けました。

「普段からニュースや本、会話などで気になったことをメモしてきました」と高橋さん。後から読み返すと、自分が何に興

味があり、何を伝えたいのかに気付くそうです。

現在では“後輩記者”の記事を毎回楽しみに読んでいるという高橋さん。今年の春からシステムエンジニアになり、社会人として新たな道を歩み始めました。



奥華子

Oku Hanako

(七林子ども記者OG)

キーボード弾き語りの路上ライブなどで活動しているシンガーソングライター。平成17年にメジャーデビュー。“ガスト”や“マスト”などのCMソングも多数手がけてきた。劇場版アニメーション『時をかける少女』で注目を集める。19年にちば観光特使に任命され、観光キャンペーンソングになった「僕が生まれた街」には、船橋への思いが込められている。

子ども記者
OB・OG便り

先輩たちが語る

子ども記者の 経験が自信に

「市船出身でソウル五輪金メダリスト(背泳)・鈴木大地選手を取材したことが、一番の思い出ですね」。平成元年度の子ども記者・奥華子さんが話してくれました。大好きな七林小学校の文化祭のことを書いた記事が広報紙に掲載され、「みんなに読んでよかったです」ともらって、自分への自信にもつながりました」と思い出を語ります。

書くことが楽しくなり、曲作りを始めました。「歌手になりたい」と思ってたわけじゃない、ただ友達や家族にほめられるのがうれしかったんです。記者のときもそうですけど、子どものときの自信って、その後の人生に関わってきますよ」と、自分のこれまでを振り返りました。

本当に伝えたいことを ストレートに

「文章でも会話でも、自分が本当に伝えたいことって何だろう、って考えてみたらいいと思います。それを、かっこ悪いか、なんて恐れずに、ストレートに出してみて」とのアドバイス。



鈴木選手(後列右から3人目)と奥さん(前列左から2人目)(大穴市民ホールで)

なお、全国的に活動をしている奥さんですが、東日本大震災直後に「自

分ができることをする」と始めたチャリティーライプツアーの出発点は、ららぽーとTOKYO BAY。さらに去年のベストアルバム発売の際には津田沼駅で路上ライブを行うなど、原点であるという船橋での活動も続けています。

「船橋のフアンのおかえり、という雰囲気温かいですし、みんなに育ててもらっているなと感じています。これからも自分にとって大事なときには、ぜひ思い出のつまった地元でライブをやりたいですね」と話す奥さんの顔は、船橋の人やまちへの愛情にあふれていました。



親子で記者を務める喜び

片山 典子さん(昭和54年・海神中)、
建くん(平成19年・海神小)

「まさか親子で子ども記者になるとは思いませんでした」と振り返る片山さん親子。典子さんは、第1回子ども市議会で副議長を務めました。「喜んでしたのは私よりも母でしたね。私自身はガチガチに緊張していました」と話します。ほかの小・中学生が堂々と意見を言っていて、感心したことを今でもはっきりと覚えているそうです。

学ぶ“命の授業”について記事を書きました。小学校ではあまり取り上げられないテーマもあり、命の大切さを実感し、今でもとても印象に残っているそうです。

「建の記事が広報ふなばしに掲載されたときは、自分のことのようにうれしかったです。市議会のときの母の気持ちが今になってわかります」と優しく建くんを見つめていました。

建くんは生命の誕生について

施設見学会の写真が 懐かしくてたまらない

記念すべき第1期の子ども記者だった、佐野さん。「今のような任命式はなく、いきなり施設見学会だったので、緊張しました」と懐かしく振り返ります。

もともと学校では地域の歴史を学ぶ郷土クラブに入っていたこともあり、郷土資料館への見学で、より地元を大切にすることを覚悟を持ったそうです。「子ども記者をとおして、船橋に対する郷土愛をもってほしいですね」と先輩からのメッセージを送ってくれました。



佐野 立也さん
(昭和48年・飯山満小)



施設見学会の集合写真(郷土資料館にて)。写真後列左から5番目が佐野さん。見学会のバスの中で隣に座った子は今の部活仲間となるなど思い出がたくさん

小旅行



発展する船橋 10年で人口20万人増

鉄道網の発達とともに、市内各地に次々と住宅団地が建設されました。39年に20万人だった市の人口は、49年に40万人を超え、人口が急増した時代でした。



▼総武線快速が開通し、船橋と東京間が25分の近さに短縮されました(47年7月)

▲40年代には習志野台(42年)、夏見台(43年)、若松(44年)、金杉台(46年)に団地が造られ、多くの人が入居し、人口が急増しました(写真は金杉台団地)



〈社会〉石油ショックで買いだめと省エネ

48年の石油ショックによりガソリン・紙不足が起こり、各地でトイレトペーパーなどの買いだめ騒ぎが起こりました。また、繁華街などのネオンの使用時間が制限されました。

〈スポーツ〉長嶋茂雄選手引退

48年、川上哲治監督率いる巨人が日本シリーズV9を達成。その翌年には「我が巨人軍は永久に不滅です」という言葉を残して、長嶋茂雄選手が現役を退きました。

覚えていますか 当時の話題・流行りもの



石油ショックにより、日本経済は高度成長から低成長時代に移行。また、カラーテレビの普及が進み、人気番組や名作CMが続々と生まれ、人々が、娯楽やゆとりを求め始めた時代でした。

〈テレビ〉「へんしーん」、「ちょっとだけよ」

47年には『仮面ライダー』の放送が始まり、その後の変身ヒーローの火付け役となりました。『8時だヨ!全員集合』は48年、視聴率が50パーセントを突破したことも。それぞれ番組内のセリフである「へんしーん」、「ちょっとだけよ」は大流行となりました。

〈その他〉超能力、カンフー、ツチノコ

ユリ・ゲラー氏のスプーン曲げに始まる超能力ブームが沸き起こりました。ブルース・リーに代表される香港映画のカンフーに夢中になった人もいます。全国で目撃例が相次いだ、未知の生物「ツチノコ」は未だに発見されていませんね。

子ども記者の歴史 まだまだあるよ

1面で紹介した活動のほかに、これまで子ども記者の皆さんはさまざまな事業に取り組んできました。ここでは、船橋市の魅力を伝えてくれた多くのイベントや紙面をピックアップして紹介します。

平成6年～10年 7回発行した

ふなっ子通信



平成6年から10年まで発行していた児童・生徒向けの広報紙「ふなっ子通信」。小学1年生でも読めるようにと、内容を簡単にまとめ、漢字に

はふりがなを入れていました。子ども記者たちは、市内の公共施設の紹介や高齢者の方との交流を記事にするなど活躍しました。



キャンプ体験

過去には、大神保町の青少年キャンプ場や青少年会館でキャンプも行っていました。みんなでテントを組み立てて泊まり、かまどでごはんを炊くなど、「キャンプの達人」を目指して、普段の生活では

なかなか体験できないことに挑戦。レクリエーションやキャンプファイヤーで盛り上がり、友情を深めました。

潮干狩り



毎年、多くの人でにぎわう、ふなばし三番瀬海浜公園の潮干狩り。自らが体験することで、多くの人にPRしました。

模擬選挙を体験

大人になる前から、選挙に関心を持ってもらおうと企画。始めは緊張気味でしたが、投票を終えると「意外に簡単だった」との声も聞かれました。



子ども記者が 始まったころ 40年前に

子ども記者制度が始まった昭和48年。社会や人々は、どんな様子だったのでしょうか。そのころを市内の写真とともに振り返ります。

昭和の風景 あのことろのまちの様子



▲写真は46年のJ.R船橋駅南口

▶45年の京成船橋駅脇の踏切の朝の通勤の様子です



◀にぎわいを見せる本町通りの歩行者天国。写真の奥には船橋大神宮も見えます(46年)

▶「東洋一のレジャースポット」として全国に名をとどろかせた、船橋ヘルスセンター。30年から52年まで営業され、毎年多くの人が集まりました(写真は47年のゴールデンプーチ)



移動図書館 「まつかぜ号」がスタート

ひとりでも多くの人に本を読んでもらおうと、48年から移動図書館「まつかぜ号」がサービスを開始しました。

▶当時は市内28カ所のステーションを、現在は市内38カ所を巡回し、各地に読書の楽しみを届けています



▶46年、歩行者が多い本町通りにスクランブル交差点が設置され、通行が安全・効率的に



県内初！衛生センターとスクランブル交差点

衛生センター（現在の中央保健センター）と、スクランブル交差点は、それぞれ千葉県で初めて設置された、先進的なものでした。



▶48年10月に開設された衛生センターでは、最新式の設備により、ガンや結核等の精密検査ができるように。また、同年12月には夜間急病診療所も開設されました

若潮国体開催 市内で3競技を実施

48年10月、若潮国体（第28回国民体育大会）が千葉県で開催され、船橋では乗馬、体操、重量挙げの3競技が実施されました。



▲47年7月に完成した市民体育館（運動公園の体育館）は、体操の会場になりました

▼華やかな女子の体操競技に会場を埋めた大勢の観客が見入っていました





船橋のおとぎの国 アンデルセン公園へ

子ども記者が 突撃レポート!



(写真前列左から)
大穴北小6年 大矢乃愛さん
行田西小6年 赤座希望さん
峰台小6年 鷺谷幸多郎くん

法典東小6年 長田悠汰くん
(写真後列左から)
芝山中2年 佐藤珠栄さん
小室中2年 高宮将人くん



▲オーデンセ市の建物をモデルに建てられたコミュニティセンター

アンデルセン公園では、童話の世界や自然に親しめるほか、体を使って元気に遊んだり、自由な発想でアートを体験したりと、さまざまな楽しみ方ができます。初めてでも、何度行っても面白い、そんな同公園の魅力を、子ども記者がお伝えします。子ども記者たちも編集に携わったユニークな記事をお楽しみください。

☎ アンデルセン公園 ☎ 457-6627

あちこちに隠れているよ ～全部探しタイヨウ!～



太陽の切り紙
見つけた!

童話作家として知られるアンデルセンは、切り紙作家でもあったんだ。有名な代表作「太陽の顔」は、公園のいろんなところに描かれているよ。みんなはいくつ発見できるかな?



マンホールにも「太陽の顔」が!

本場のデンマーク料理を味わおう



①クロワッサンサンドはふわふわのパンに、柔らかいハムとシャキシャキのレタスがたっぷりだったよ!
②デンマークドッグはカリカリのパンと太いソーセージから出る肉汁が

ボートハウスで販売中



おいしかったね。みんなも本場の料理を味わおう!

メルヘンの世界を体験してみよう

子ども美術館のアンデルセンスタジオでは、本格的なセットの中で「親指姫」のお話を演じられます。
□開催日時(土)日祝、春・夏・冬休み各午後2時～※12月26日(木)、27日(金)を除く 対象4歳～中学生 費用300円 定員当日先着15人 問合せ 子ども美術館 ☎ 457-6661



衣装を着て、登場人物になった気分になれるよ。童話の世界に入ったみたい。

日本最大級のアスレチックに挑戦

100ポイントものアスレチックで遊べます。こんなにたくさんあるのは、日本でも珍しいそうです。冒険気分が味わえるよ。いろいろな形があるから全部クリアしてみよう。



顔には役ごとに違った絵を描いてもらえるよ

うわ～本物みたい

何を描いてもらえるのかな



みんなと取材した一日～取材メモ・子ども記者版～

○今まで知らなかったことを教えてもらいました。将来は新聞記者になってみたいと思いました (鷺谷くん)
○園内を回り、さらに興味が湧いてきました。またみんなと取

材しに来たいなと思いました (大矢さん)
○取材して、自分の感じたことをほかの人にわかってもらえるように紙面を作ることが意外に難しかったです (佐藤さん)



○今までアンデルセン公園には何回か来たことがありましたが、取材をするといつもと違う発見ができました (赤座さん)
○デンマークから直輸入したものを買えることを知りました。

編集作業は大変だったけれど、楽しかったです (高宮くん)
○見て、食べて、デンマークの伝統をたくさん学べました。アスレチックが本当に楽しかったです (長田くん)

26/3/21(祝)～4/20(日)

オーデンセ市姉妹都市
提携25周年記念

花と緑のフェア

船橋市とデンマーク・オーデンセ市との姉妹都市提携25周年を記念し、アンデルセン公園で“花と緑のフェア”を開催します。800本の桜や20万株の草花が皆さんをお出迎え。華やかな春の公園をお楽しみください。

□開催期間26年3月21日(祝)～4月20日(日)